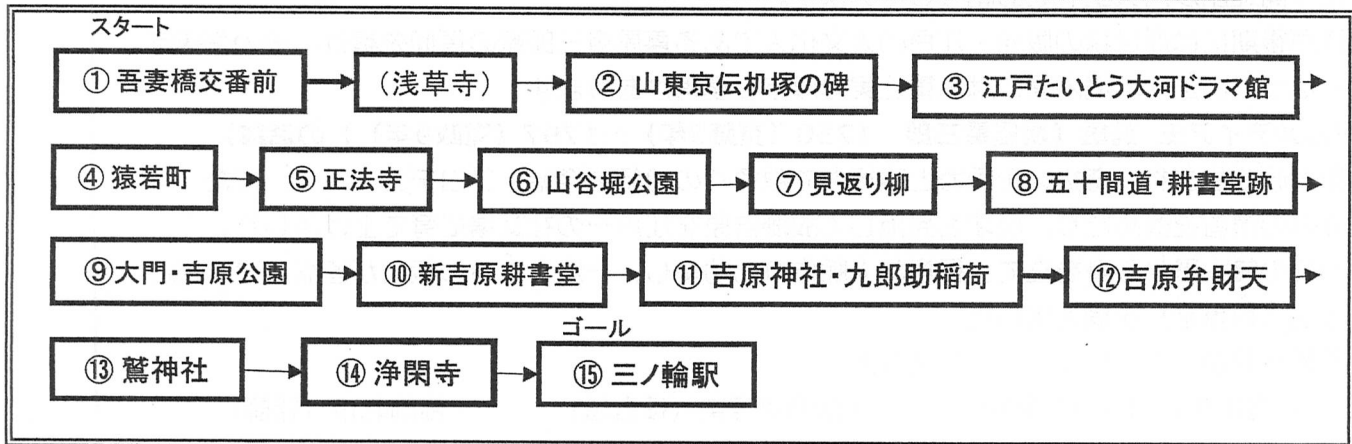


蔦重の故郷、新吉原に行ってみよう！



②【山東京伝机塚の碑】

本名を北尾政演と言い、蔦屋重三郎の元で絵師、戯作者（洒落本や黄表紙を書く作家）としてマルチな才能を発揮しました。蔦重のパートナーとして活躍し、黄表紙の最高傑作と言われる代表作「江戸生艶気樺焼」を出版し、戯作者として不動の名声を築きました。

浅草寺の裏手に、弟京山が亡兄を偲んで建立した碑があります。碑の表面には京伝が生前に著した愛用の机についての小分が刻まれています。

☆ 初代五重塔跡の石碑があります。火災や震災もあって立て替えられ現在と反対側です。
江戸時代徳川家光によって再建された五重塔は「江戸四塔」の一つとして親しまれました。

③【江戸たいとう大河ドラマ館・台東区民会館】

2025年の大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢嘶～」ドラマの主人公である蔦屋重三郎ゆかりの地にある台東区民会館で、ドラマの世界観を体験できる展示や登場人物＆衣装・小道具の展示も楽しめます。2026年1月12日まで開催されています。

④【猿若町】

街の名前は江戸歌舞伎の創設者とされる「猿若勘三郎」にちなんで名付けられました。江戸時代の末期の天保の改革により、それまで日本橋周辺にあった歌舞伎の江戸三座（中村座、市村座、森田座）と人形浄瑠璃の小屋が1841年（天保12）に幕府により強制的に移転させられて誕生しました。役者や芝居関係者に住居や芝居茶屋が軒を連ね、江戸歌舞伎の中心地として賑わいました。明治維新後も芝居の中心地として栄えましたが、その後小屋の移転が相次ぎ、明治中期には芝居町としての役割を終えました。

⑤【正法寺・蔦屋重三郎の墓碑】

正法寺は、天正10年（1582年「本能寺の変」の年）に心壽院日位上人により開山されました。日位上人は日蓮宗中興 一如院日重上人の直弟で比叡山遊学の折に毘沙門天の尊体を得、学頭の許しを得て関東に下向し隅田川の辺りに庵室を結びます。

徳川家一行より天下平定成就の依願を受けて「膳精を抽んじ祈祷し」徳川の世となった暁に東照神君より寺領（現在の正法寺、東浅草の地）を賜り、日位上人の生国 越前城主松平越前

守の祈祷所となりました。

また、正法寺は神楽坂の善國寺、芝の正傳寺と共に「江戸三大毘沙門天」の一角に数えられた「開運毘沙門天王」をお祀りしています。

江戸後期には浮世絵の版元・江戸の大文化人である蔦屋重三郎家の信仰を請け、その菩提寺となっています。境内裏には蔦重と実母津与の墓碑があります。

⑥【江戸のメディア王 蔦重（蔦屋重三郎 1750（寛延3年）～1797（寛政9年））の活躍】

新吉原で生まれ、奇抜な企画力と実行力で数多くの絵師を発掘、プロデュースし、また従来の慣習を改めたり、商才も発揮して故郷吉原を江戸一の社交場に育て上げました。

一介の貸本屋から身を立て、得意な人脈作りも功奏し、一流どころの版元が連なる日本橋に大店（耕書堂）を構えました。

☆ 蔦重が発掘・プロデュースした主な人

- | | | |
|---------------|-----------------|--------------|
| ・ 喜多川歌麿（浮世絵師） | ・ 東洲斎写楽（役者絵） | ・ 葛飾北斎（絵師） |
| ・ 栄松斎長喜（浮世絵師） | ・ 北尾重政、北尾政美（絵師） | ・ 恋川春町（浮世絵師） |
| ・ 山東京伝（作家） | ・ 太田南畝（作家） | ・ 明誠堂喜三二（作家） |
| ・ 石川雅望（狂歌師） | ・ 十返舎一九（作家） | ・ 曲亭馬琴（作家） |

⑥【山谷堀公園】

王子の音無川から隅田川に注ぐ水路の山谷堀を埋め立てた細長い公園です。

江戸時代には吉原に通う猪牙船で賑わったと伝わっています。墨田公園から北西に向かって約700mに亘って延びる公園には様々な植物が植えられ、桜のシーズンには一面ピンクに彩られ、混雑する隅田公園よりも、隠れた桜の名所として多くの花見客が訪れます。

⑦【見返り柳】

吉原への出入り口となる日本堤には柳の木が植えられており、遊郭帰りの客が名残を惜しみつつ、この柳のあたりから振り返ったことから言われる様になりました。

かつては山谷堀の土手にありましたが、震災や戦災等で数代にわたって植え替えられ、現在は「吉原大門」交差点付近に植えられています。

⑧【五十間道・耕書堂跡】

見返り柳から吉原大門へと続くS字に曲がった通りが「五十間道」です。S字カーブを描いていることにより、日本堤から吉原の様子が見えない様に工夫されていました。別世界演出。別世界に入る気持ちを高める為の演出。身支度を整えることもあって別名「衣紋坂」とも。

五十間道の途中に、安永元年（1772）22歳の時義兄である蔦屋次郎兵衛の援助を受け、書店「耕書堂」を開きました。その店名は「これからの世は、書（武でなく文で）で耕す（開く）んだ」と、平賀源内のアドバイスだったと言われています。

蔦重の耕書堂は日本橋通油町に進出し、明治初期まで5代続いたと言われています。

尚、現在ある「TSUTAYA」（蔦屋書店）は、蔦屋重三郎の子孫ではなく、創業者の「増田宗昭」さんの祖父が営んでいた置屋の屋号が「蔦屋」だったことから付けられたとの事。

しかし、全く関係は無い訳ではなく、その祖父の屋号は蔦屋重三郎にあやかって名付けられたと伝えられています。

⑨【大門（おおもん）・吉原公園】

大門は真四角に水路で囲まれた新吉原遊郭の唯一の出入り口に立っていました。大門は遊女が逃げない為、無銭飲食などの客が逃げない為や聖と俗を区別する為とも言われています。おおもんであえて隔離して、そこに入る楽しさの演出をしたとのこととも言われています。移転当初の新吉原は、浅草寺の裏手の田園が広がる湿地帯でお歯黒どぶと呼ばれる掘割で盛土をして作られました。最大で14mも盛って、洪水の時の避難場所としたようです。吉原公園やその周りではその段差を見ることが出来ます。

（吉原の歴史）

1618年庄司甚右衛門が幕府に請願し、江戸各地に点在する遊女屋を日本橋葎原に纏めました。当初は人家もまばらな湿地帯でしたが、町の発展と共に江戸市中の中心部に存在することになり、風紀上良くないと判断した幕府は1658年の明暦の大火を機に浅草寺裏手にある田園の中に移転を命じました。東西京間180間（約327m）、南北京間135間（約245m）、総面積20.760坪（東京ドーム2個分）、幅2間の掘割（お歯黒どぶ）に囲まれ、出入り口は大門一つだけの遊郭・新吉原が成立しました。

その後商人が武士を接待するビジネスの場でもあり、江戸の男たちの粋を競い合う社交場でもあり、金さえ出せば武士も町人もなく、人間性を解放出来る唯一の場所だったようです。

⑩【江戸新吉原耕書堂】

期間限定で、蔦屋重三郎が開業した「新吉原耕書堂」を模した「江戸新吉原耕書堂」がオープンしています。街並み・生活ぶり・名物など復元し当時を偲ばせて呉れます。ガイドさんも居たり、パンフレット、記念品もあります。休憩がてら一息つきましょう！

⑪【吉原神社・九郎助稲荷】

江戸時代に栄えた吉原遊郭と共に歩んできた格式高い遊女をはじめ、壮絶な人生を歩む多くの女性の願いを聞き信仰された神社です。元々は日本橋葎屋町にあった「葎原」が転じて「吉原」なり、江戸の過疎地であった現在の千束村へ移転しました。

この「新吉原」には廓の守護神として五つの稲荷社が存在しました。吉原の入口である大門（おおもん）の手前に「吉徳稲荷社」、さらに廓内の四隅には「榎本稲荷社」「明石稲荷社」「開運稲荷社」「九郎助稲荷社」がお祀りされていました。

時代劇のシーンや「吉原炎上」「花魁道中」などドラマや映画の舞台にもなった場所で一日千両の金が動く幕府公認の歓楽街として賑わい、色恋・色欲・愛憎・悲喜な人間の生き様がリアルにそこにあった場所として、その人生ドラマ的な雰囲気と開放的な社交場としてかつては江戸文化の交流・発信の場でもありました。

現在は、遊郭も廃止になり元々5つの稲荷神社が吉原神社を囲む様に祭られていたものを明治時代に5つの稲荷神社と吉原弁財天を合祀し、現在の吉原神社になりました。

その御利益は、開運招福、五穀豊穡、家内安全、財運向上、芸芸上達、縁結びなど、現在も女性たちに人気のパワースポットとなっています。

⑫【吉原弁財天】

元は吉原遊郭の守護神として信仰を集めた弁財天を祀る場所で、現在は吉原神社に合祀され、境内地（境外末社）として「吉原弁財天本宮」にその名残を伝えています。

境内には関東大震災の犠牲者を弔う「吉原観音」や遊郭の歴史を示す碑が残されており、

開運・商売繁盛・芸能上達のご利益があるとされ、浅草七福神の一つです。

関東大震災で多くの犠牲者が出た際、弁天池に飛び込んで圧死したり、溺死した人や炎に焼死した人など、500体に近い犠牲者が出たと言われており、展示パネルがあります。

惨状を哀れんだ地元の有志のご厚意でご遺体の多くが三ノ輪の「浄閑寺」に葬られています。

⑬【鷲神社】

祭神は天之日鷲命、日本武尊の二神。天之日鷲命は武運、開運の神として信仰されていましたが、のちに商売繁盛の神として信仰される様になりました。社伝によると日本武尊が東征の帰途、天之日鷲命の祠に熊手を掛けて戦勝を祝ったとされ、この日が11月の酉の日で、以来11月の酉の日を祭礼としました。

ここは新吉原の裏手にあたり、吉原は11月の酉の日に関り、掘割の跳ね橋を下し、普段は閉ざしている門を解放して一般の通行を許しました。遊女の親、知人も会いに来ることが出来ました。境内や田んぼの畦道に並んだ露店では商売繁盛の縁起物（熊手、竹箒、八つ頭、切り山椒、黄金餅）が売られました。下見の時は酉の日で参拝客で大混雑していました。

⑭【浄閑寺】

俗に「投げ込み寺」と呼ばれる浄閑寺は、江戸初期に三田から移った寺です。

身寄りや引き取り手のない新吉原の遊女の遺体が、投げ込む様に埋葬されたことからこう呼ばれています。安政の大地震（1855年）で焼死した遊女たちを含めた約2万5千柱を葬った新吉原総霊塔が境内裏手にあります。

また境内には永井荷風（1879～1959年）の死後4年目、文学碑と供養塔が建てられました。供養塔には荷風の歯2本と愛用した小筆が収められています。

⑮【三ノ輪駅】

東京メトロ日比谷線の駅で、中目黒～北千住を結び、上野・銀座・日比谷など都心に直通しています。また、都電荒川線（三ノ輪橋～早稲田）の「三ノ輪橋停留場」が5分で行けます。

